



令和3年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和2年12月14日

上場会社名 株式会社バリューゴルフ 上場取引所 東  
 コード番号 3931 URL https://corp.valuegolf.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水口 通夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部部长 (氏名) 渡辺 和昭 (TEL) 03-6435-1535  
 四半期報告書提出予定日 令和2年12月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 ( )

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年1月期第3四半期の連結業績(令和2年2月1日~令和2年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年1月期第3四半期	3,326	△20.6	45	244.6	50	828.4	△7	-
2年1月期第3四半期	4,190	42.8	13	△71.8	5	△85.5	△15	-

(注) 包括利益 3年1月期第3四半期 △7百万円( -%) 2年1月期第3四半期 △15百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
3年1月期第3四半期	△4.10	-
2年1月期第3四半期	△8.76	-

(注) 令和2年1月期第3四半期及び令和3年1月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
3年1月期第3四半期	2,102	1,025	48.6
2年1月期	2,229	1,050	47.0

(参考) 自己資本 3年1月期第3四半期 1,022百万円 2年1月期 1,048百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2年1月期	-	0.00	-	10.00	10.00
3年1月期	-	0.00	-		
3年1月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和3年1月期の連結業績予想(令和2年2月1日~令和3年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,550	△21.1	80	24.1	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2020年12月14日公表の「令和3年1月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に対する政府や自治体による経済支援策の状況等変動要素が多いことから経常利益以下を引き続き未定とし、業績予想の公表が可能となった段階で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 - 社(社名) 、除外 - 社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
 ② 期末自己株式数  
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

3年1月期3Q	1,792,700株	2年1月期	1,792,600株
3年1月期3Q	191株	2年1月期	165株
3年1月期3Q	1,792,514株	2年1月期3Q	1,792,467株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(令和2年2月1日～令和2年10月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の感染拡大の影響から依然として厳しい状況にあります。経済活動が徐々に再開され、日経平均株価がCOVID-19の感染拡大前の水準まで回復する等明るい兆しがある一方、個人消費や設備投資は減退しており、経済の見通しは予断を許さない状況にあります。海外におきましても、通商問題における米中対立の深刻化や、再度COVID-19の感染が拡大している欧米を中心に強制的な移動制限や外出制限が行われたことによる経済活動の停滞が懸念され、先の見通せない状況が続いております。

ゴルフ事業を取り巻く環境におきましては、COVID-19の感染拡大に伴い、大人数を集客するイベント企画やコンペ等の団体客の予約は減少しているものの、個人を中心とした少人数での利用は増加傾向となり、ゴルフ場利用者数の前年同月比は7月9.2%減、8月10.0%増、9月6.5%減と推移いたしました。(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。また、ゴルフ自体は「3密」を避けやすいスポーツであるという面も注目され、国内外で若年ゴルファーが増加するという傾向にあります。プロトーナメントも無観客ではあるものの開催が再開され、今後はゴルファーの消費意欲の復調が期待されます。

トラベル事業を取り巻く環境におきましては、COVID-19の世界的な感染拡大により、フライトの大幅な運休・減便が続いており、多くの国において、検疫強化、査証の無効化等の措置が引き続き取られました。訪日外客数は8月が8,700人(前年同月比99.7%減)、9月が13,700人(前年同月比99.4%減)となり、12か月連続で前年同月比を大幅に下回っております。また、出国日本人数も8月が37,137人(前年同月比98.2%減)、9月が31,600人(前年同月比98.2%減)と激減(日本政府観光局「JNTO」)し、世界的に旅行需要が停滞している状態にあります。一方、国内においては7月より政府が打ち出した「Go To トラベル事業」が実施されており、当初は対象外だった東京も10月に追加されたことが追い風となり、国内旅行者数の復調に期待がかかります。

このような環境の下、当社グループは『1人予約ランド』を核にしたゴルフ事業の更なる拡大を推進し、トラベル事業における利益の減少を吸収し前年を上回る利益を確保する等、経営の効率化に成功いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高3,326,522千円(前年同期比20.6%減)、営業利益45,732千円(前年同期比244.6%増)、経常利益50,295千円(前年同期比828.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失7,342千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失15,698千円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、ASPサービス『1人予約ランド』における契約ゴルフ場数及び会員数が引き続き堅調に推移し、令和2年10月31日時点で契約ゴルフ場数は1,100コース超、会員数は71.3万人(前年同期比18.8%増)となりました。『1人予約ランド』を利用したプレーは、自宅からゴルフ場への移動が1人になることで、プレー中だけではなく終日「3密」を避けることができるため、感染症対策という点でもゴルファーから高い評価を受けております。

広告・プロモーションサービスにおいては、ポータルサイト『VALUE GOLF WEB』のリニューアルをいたしました。『1人予約ランド』をはじめ、『月刊バリューゴルフ』『バリューゴルフレッスン』といった各サービスのWEBサイトをバリューゴルフグループの下で再統合し、利便性とブランド力の向上を図りました。その結果、『VALUE GOLF WEB』へのアクセス数は前年比120%超の水準で推移しており、各サービスにおける集客効果が強化されております。『月刊バリューゴルフ』は掲載コース数が引き続き増加傾向にある他、『バリューゴルフレッスン』(ゴルフ場にて開催するオンコースレッスン)においては、新たに2コースと契約し開催会場数が増えた他、レッスンコーチも19名が新規レッスンをスタートさせる等、サービスの拡大傾向が持続しました。

ECサービスにおいては、インターネット通販における10月までの累計売上高は前年同期比34.1%増となり、引き続き好調を維持しております。COVID-19の影響により海外情勢が不安定な中、従来の北米ルートに加えアジア・オセアニア経由のルートを駆使し、商品を安定的に調達できる体制を構築いたしました。また、実店舗も来客数が徐々に回復し、短縮していた営業時間を通常に戻す対応を行う等、復調傾向となっております。

バリューゴルフ大崎においては、東京都からの営業自粛要請を受けた休業からの再開後、徐々に施設の稼働率が復調してまいりました。新たに講師陣を充実させ、ゴルフ場で実際にプレーしながらレッスンが受けられるラ

ウンドレッシンも再開するなど会員のニーズにあったサービスを展開しております。12月には最新のシミュレーターを追加導入することも決定しており、当社グループならではのリソースを注入することにより、他のゴルフスクールとは一線を画す複合ゴルフ施設を目指してまいります。

以上の結果、売上高2,679,765千円(前年同期比13.0%増)、営業利益366,214千円(前年同期比16.9%増)となりました。

(トラベル事業)

トラベル事業におきましては、航空機の欠航が相次ぐ中、航空券の手配に加え、ゴルフ・団体旅行を中心とした企画旅行の企画・販売に注力いたしました。7月より開始された「Go To トラベル事業」を活用し、在日外国人向けのバスツアーを月間20本ペースに増発いたしました。乗車人数の制限や換気の徹底等、COVID-19の感染を回避した運用下で募集を行い、軒並み完売の状況となっております。また、ゴルフツアー企画では10月に「2人予約旅長崎」を催行し、募集人員に対し約2倍の申込を受ける等、ユーザーの旅行意欲が回復していることを実感しております。また、収益を確保するべくコスト削減を継続的に行う一方、年末年始の沖縄ツアーを多数企画した他、大阪事務所を移転し、コロナ後の事業展開に向け、拡販体制を整えました。

以上の結果、売上高617,248千円(前年同期比65.0%減)、営業損失84,833千円(前年同期は営業損失57,950千円)となりました。

(その他の事業)

その他の事業セグメントにおきましては、広告メディア制作事業において経済活動の停滞を受け求人広告掲載を控える企業が増え、当社グループの受注数は低調な推移となりました。しかし、結婚式場等のエンドクライアントに向けてリクルート社がキャンペーンを実施したことにより、ブライダル媒体への掲載依頼数は予測よりも上向きました。また、新たな事業展開を目指し動画配信サイトに開設した『バリューゴルフチャンネル』では動画数の増加とともに視聴者数も増加しております。利益の確保に向けては人員の配置変更や輪番での休業といったコスト削減施策を継続して実施いたしました。

以上の結果、売上高30,365千円(前年同期比48.6%減)、営業利益373千円(前年同期比89.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して126,564千円減少し、2,102,968千円となりました。これは主に現金及び預金の増加151,357千円、売掛金の減少74,825千円、商品の減少31,443千円、旅行前払金の減少110,328千円、のれんの償却等による無形固定資産の減少47,119千円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して101,054千円減少し、1,077,841千円となりました。これは主に短期借入金の減少50,000千円、旅行前受金の減少123,018千円、長期借入金（1年内返済予定を含む）の減少29,600千円及び買掛金の増加85,772千円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して25,509千円減少し、1,025,127千円となりました。これは主に利益剰余金の減少25,266千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの連結業績予想につきましては、2020年12月14日公表の「令和3年1月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大に対する政府や自治体による経済支援策の状況等変動要素が多いことから経常利益以下を引き続き未定とし、業績予想の公表が可能となった段階で速やかに業績予想を公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和2年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	666,155	817,513
売掛金	387,890	313,065
商品	580,458	549,015
旅行前払金	135,771	25,442
その他	35,122	64,193
貸倒引当金	△13	△5
流動資産合計	1,805,385	1,769,224
固定資産		
有形固定資産	42,419	44,370
無形固定資産		
のれん	130,679	90,167
その他	17,236	10,628
無形固定資産合計	147,916	100,796
投資その他の資産		
その他	253,649	198,250
貸倒引当金	△19,838	△9,674
投資その他の資産合計	233,810	188,576
固定資産合計	424,146	333,743
資産合計	2,229,532	2,102,968
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	144,193	229,965
短期借入金	400,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	87,252	94,568
旅行前受金	185,218	62,200
引当金	10,184	9,817
その他	139,907	156,146
流動負債合計	966,755	902,698
固定負債		
長期借入金	181,416	144,500
資産除去債務	30,723	30,643
固定負債合計	212,139	175,143
負債合計	1,178,895	1,077,841
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	378,728	378,753
資本剰余金	371,219	371,244
利益剰余金	298,433	273,166
自己株式	△311	△338
株主資本合計	1,048,070	1,022,826
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	166	△99
その他の包括利益累計額合計	166	△99
新株予約権	2,400	2,400
純資産合計	1,050,637	1,025,127
負債純資産合計	2,229,532	2,102,968

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 平成31年2月1日 至 令和元年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和2年2月1日 至 令和2年10月31日)
売上高	4,190,305	3,326,522
売上原価	3,209,272	2,351,184
売上総利益	981,032	975,337
販売費及び一般管理費	967,762	929,604
営業利益	13,270	45,732
営業外収益		
受取補償金	—	6,500
受取利息及び配当金	108	87
賃貸収入	461	461
為替差益	—	3,987
その他	703	321
営業外収益合計	1,273	11,358
営業外費用		
支払利息	6,012	4,507
支払手数料	1,617	1,759
為替差損	924	—
その他	571	528
営業外費用合計	9,126	6,795
経常利益	5,417	50,295
特別利益		
事業譲渡益	—	1,818
特別利益合計	—	1,818
税金等調整前四半期純利益	5,417	52,114
法人税、住民税及び事業税	17,201	19,520
法人税等調整額	3,913	39,935
法人税等合計	21,115	59,456
四半期純損失(△)	△15,698	△7,342
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△15,698	△7,342



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成31年2月1日 至 令和元年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和2年2月1日 至 令和2年10月31日)
四半期純損失(△)	△15,698	△7,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△265	△265
その他の包括利益合計	△265	△265
四半期包括利益	△15,963	△7,608
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△15,963	△7,608

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成31年2月1日 至 令和元年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,370,008	1,761,827	4,131,835	58,469	4,190,305	—	4,190,305
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,199	940	2,139	595	2,734	△2,734	—
計	2,371,207	1,762,768	4,133,975	59,064	4,193,040	△2,734	4,190,305
セグメント利益又は損失(△)	313,140	△57,950	255,190	3,626	258,816	△245,546	13,270

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディアカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△245,546千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 令和2年2月1日 至 令和2年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,679,557	617,031	3,296,588	29,933	3,326,522	—	3,326,522
セグメント間の内部売上高 又は振替高	207	217	424	432	857	△857	—
計	2,679,765	617,248	3,297,013	30,365	3,327,379	△857	3,326,522
セグメント利益又は損失(△)	366,214	△84,833	281,381	373	281,755	△236,022	45,732

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、メディアカル事業を含めております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△236,022千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。